

市原市認知症対策連絡協議会 第4回例会議事録

日時 平成26年(2014年)7月24日(木) 18時30分～21時00分

場所 市原市五井会館 4階 大ホール 参加者 70名

1. 小沢義典会長挨拶

2. 【ミニ講演会】 「成年後見制度」について

(株)コスモ成年後見サポートセンター 行政書士 大塚喜男氏

- ・ 成年後見人制度とは、2000年4月介護保険制度と同時にスタート。
- ・ 認知症、知的障がい、精神障がい等の精神上的障がいにより判断能力が不十分になったひとに対し裁判所から選任された後見人等が、本人を代理して法律行為を行う制度。
- ・ 後見人の仕事は身上監護、財産管理。
- ・ 後見人の仕事でないものの毎日の買い物、家事援助、身体介護、医療行為に関する同意、保証人・身元引受人、結婚・離婚などの同意、居住地の指定、日用品の購入に対する同意・取り消し、遺言・延命行為等の本人自身の意思に基づくことが必要な行為。
- ・ 申立は弁護士・司法書士しか出来ないため書類の準備等に費用がかかる。報酬は裁判所のホームページに記載されている。
- ・ 市町村長による申立が導入された。
- ・ 市が申立を行い、本人に財産が無い場合は市が費用を支払う。(市の予算で組まれている。)

3. 各分科会報告

【医療部会】 早期発見・早期治療のために、スクリーニング方法を検討

- ・ タッチパネル方式でスクリーニング検査ができる機器がある。
- ・ 機器をどこに置けば有効か。公的施設(公民館等)を利用しているのは元気な人。在宅で必要な人に検査するにはどうすれば良いか。
- ・ スクリーニング検査を実施した人が、その後どうすれば良いか。かかりつけ医でフォローする体制が必要。
- ・ 啓発の方法で、例えばお祭りの場に「認知症コーナー」のブースを出すなど、我々の方から積極的に地域に出ていく必要がある。
- ・ 認知症サポーター養成講座を受けた人にステップアップ研修を受けてもらい、スクリーニング検査やその後の身近な相談窓口になってもらう。
- ・ スクリーニング検査やかかりつけ医のフォロー体制は、市原市医師会との連携が必要。
- ・ とりあえず、辰巳、若宮をモデル地区として、早期発見早期対処のモデル案を労災の安田と辰巳包括の菊池が案をつくる。

【施設部会】 市内介護サービス事業所・施設一覧の市ホームページへの掲載とリンクに

ついでの要望

- ・ 施設の現状ではHPの更新状況など煩雑になり、難しいという結果になった。
 - ・ 市が発行している施設をまとめた冊子をデータ化し、各施設のショートステイ受け入れ人数や緊急時の受け入れ体制？の情報を市HPに掲載してもらいたい。
- （緊急時の措置としての受け入れ枠を市が認めてくれると受けやすい？）

相談員の連絡体制の整備について

- ・ 施設間の横のつながりを推進するため「顔の見える関係づくり」の集いを10月2日（木）18：30～認知症カフェかさねで開催予定。

【サービス・地域部会】見守りシステムを、自分たちに出来ることから検討。

(①誰に②どのような見守りをしてもらいたいか、でグループワークを行い、発表した。)

- ・ ①誰にでは、タクシー会社やバス会社、学生（小中高）、郵便・新聞・お弁当の配達員、近隣住民や農作業で外仕事をする人、コンビニ店員、ガソリンスタンド店員、商工会議所、警察などの意見があった。
- ・ ②どのような見守りをしてもらいたいかでは、お店では「あれ？もしかしたら」と思ったら、服装や特徴を情報提供することや、写メを撮影して警察に問い合わせる、などの意見があった。現在の徘徊高齢者検索ネットワーク（防災行政無線及び情報配信メール）は、70歳代白髪の男性など情報が漠然としており発見に繋がり難い。

→『安心して徘徊ができる街づくり』を市民で進める必要がある。他市でFM放送中に行方不明者の情報を呼びかかると行っている。誰でも発見に協力できるようにするために、例えば小学校で認知症サポーター養成講座を行うなど、認知症について普及啓発していく必要がある。

→家族に、どのように対応することができるかを知ってもらうことから始めていく。（例えば、近所の人には認知症の家族がいることを説明し、ふらりと出て行ったり何かあったら協力してもらえるようにしておく。衣類には名前を書いておく等。）市と警察でSOSネットワークなどの仕組み作りを行った後に、市認協で意見を出していく。という意見もあったが、まずは、警察に捜索を出す時に必要な情報について、市認協で「この情報があると発見しやすい」というガイドラインをまとめていく。

→広域な市原市では、誰にも会わない地域もあり、認知症の人のお気に入りの靴にGPSを入れておくなどハード面からの取組みも必要だと思う。

【その他】

- ・ 会社の前を「あれっ？」と思う人が歩いていたら、巻かれてしまった。警察に連絡しても近所の交番は出払っていて対応できなかった。警察・行政だけではどうにもできない。みんなで話し合う場があることは、良いことだと思う。

- ・市では人と出会わない地域もある。GPS をお気に入りの靴に付けるとか、徘徊しても安心な町を作ることができれば良いと思う。
- ・関係作りのために、近所でラジオ体操を行うなどの活動を行っているが、地域に溶け込めていない感じがする。自然に受け入れてもらえるようになりたい。
- ・最近、包括支援センターに「認知症の話をしてください」という依頼が多い。興味は持っていると思うが、徘徊の方を早く発見するためには、教育の部分が大切。受け取る側「見つけなきゃ」と思ってもらえるように、子供たちへ教育する必要があるのでは。